

標準化と DRL

勤医協中央病院 船山和光

ハイ、どーもー！

『F 山でーす』

「W 光です」

ふたり、あわせて、デコ・はげ山でーす！

「今日はね、名前だけでも憶えて帰ってくださいね！」

『最近、僕ね、やりたいことあるのよ』

「なになに、興味あるね。聞かせてよ」

『ブーメラン・フック！』

「痛！何するの！」

『ギャラクティカ・マグナム！』

「痛いって！俺のテンプル殴るんじゃないよ。俺が力石なら死んでるところだよ！刺激で毛根生き返るかもしれないけど」

『僕ね、ほんとに昔から DRL なのよ』

「なに DRL って」

『どえれえ～・リングにかけろ・ラブ！』

「いや！分かりずらいわ！なに、ボクシングやりたいの？」

『そう、やりたい』

「ボクシングなんてね、痛いだけでね、君には無理だよ」

『そうなの？』

「そうだよ、お前。それよりさ、今の会話で何かピンとくることない？」

『ピンとくること？』

「そう、俺たちの本業に関係あること！」

『んー、ブーメランパンツのおじさんの腰椎はなんか撮りづらいとか？』

「いや、確かに、ちょっと恥ずかしいけど。そっちじゃなくて、ギャラクティカ・マグナムのほうでほら！」

『ギャラクティカ・マグナム？』

「もう、じれったいわ。ギャラクティック！でしょ！」

『ギャラクティック？』

「そう、GALACTIC、X線 CT 撮影における標準化の改訂 2 版がでたじゃない。」

『あ、そうか!』

「そうだよ、お前!それからもう一つ。ほれ」

『もう一つ?力石の体重変わりすぎるから、体重別の造影剤投与が怪しくなる?とか?』

「お前は、ほんとに逆をついてくるね。名キャッチャーのリードかっ!そっちじゃなくて、DRL!」

『どえれえ〜・リングにか・・・』

「リングにかけろ、じゃなくて、Diagnostic reference level の DRL!」

『難しいこと知ってるんだね』

「お前も少しは勉強しなさいよ。GALACTIC 改訂 2 版では、DRL も記載されてるんだから」

『なんか親切だね。ところで DRL って何?』

「診断参考レベルのこと。放射線診断における防護の最適化を行うための一つのツール言っていると思う。日本では最近出たんだよ」

『どんな値で示されてるの?』

「そうだね、検査によって違うんだけど、今日は CT でお話ししよう」

『お願いします!』

「CT は、CTDI_{vol} (mGy) と DLP (mGy・cm) で定められている。成人の場合、日本医学放射線学会と日本診療放射線技師会の撮影条件に関するアンケート調査から、各検査部位の線量分布の 75 パーセントイル点を DRL としたんだ」

『平均値より多いんだね。これから僕たちは、DRL を目指して線量設定すればいいんだね』

「ちょちょっちょと、待ってお兄さん!DRL は目標でも、線量限度でも無いんだよ!お兄さん!」

『そうなの?』

「そう!DRL を超えているからダメじゃなくて、その線量が本当に必要ならそれでいいの。ただ、本当に必要かどうかちゃんと考えましょうってこと。DRL より極端に低い場合は、被ばく低減が出来ているじ

やなくて、本当にその線量で十分な診断が出来ているかを検証しましょうってこと」

『なあるほど、それで最適化のためのツールって言ったのか』

「おっ、君もわかってきたじゃない。今ほうわべしか喋ってないから、あとで“診断参考レベル”“DRL”で検索してよ。PDFで公開されているから。しっかり読んでよ」

『うん、分かった。でも、今の若い人たち、リングにかけろとか、力石とか知らなんじゃない？』

「いや、痛いところついてくるね。」

『DRLのまえに“リングにかけろ”や“力石”で検索されちゃうね、きっと』

「いや、そうかもしれないけど！もー、止めさしてもらおうわ！」

どーもー、ありがとうございましたー！